

県民意見提出制度による提出意見とそれに対する県の考え方

番号	箇所	意見の内容（概要）	意見数	意見に対する県の考え方（対応方針）
1	全体	バス路線が次々に廃止や減便になり大きな犠牲を強いられてきた。日常的にバスを利用する者のことを無視して進められてきたと思う。今回、県全体で問題点を解決していくという思いを先ずはありがたく感じる。「ダメ・できない」だけの解決ではなく、長期にわたり公共交通機関をどうするかを一緒に考えていただきたい。	1	【実施段階検討】 この計画は、持続可能で利便性の高いバス交通ネットワークの構築に向けた基本方針と具体的な取り組みを示すために策定しました。 今後も、幅広い関係者と協力しながら継続して検討を続け、県内バスネットワークの活性化に取り組んで参ります。
2	全体	この素案で事業者任せになっていたことを、国・県・市町村が一緒になって考える覚悟を感じた。バスを利用したことの無い人への働き掛けも必要だが、これまでバスを利用してきた人にとって生活の一部となっており、様々な検討をする上で配慮が必要であり意見を聞く機会を設けながら、どうしたらバス路線を維持できるのか時間をかけて検討していただきたい。また、観光で考えるバス路線と生活を維持するバス路線は目的が違うので別に検討する方が良い。	1	【実施段階検討】 国・県・市町村・事業者など幅広い関係者と連携するとともに、利用者の意見を踏まえながら、将来にわたり持続可能で利便性の高いバス交通ネットワークの構築に向けて取り組んで参ります。 また、生活や観光などそれぞれの交通需要を的確に捉えながらバス路線の検討をして参ります。
3	全体	山梨交通のバスについて、甲府市内を走るバスを小型バスにして甲府市の公共交通システムを効率的なものに変更する。大型バスは県内拠点間を結ぶ公共交通に特化する。	1	【実施段階検討】 バスの運行については、持続可能で利便性の高いバス交通ネットワークの構築が図られるよう、バス事業者と検討して参ります。
4	2（3） バス利用に関する県民の意向	バス利用者アンケートの配付数、回収数が少ない。甲府駅など主要な場所でアンケートを配布したとのことだが、それだけでは日常的にバスを利用している県民の実態を把握したとは言えないのではないかと。	1	【その他】 バス利用者アンケートについては、専門機関と協力しながら県内各地でバランス良く実施しており、利用者の意向は反映されていると考えております。
5	2（3） バス利用に関する県民の意向	住民アンケートの回収率が3割に満たない中、広域バス路線の新設・再編という結論につなげるのは違和感がある。	1	【その他】 住民アンケート結果については、約5,000人からの回答があり、県民の意見が幅広く反映されていると考えております。
6	2（3） バス利用に関する県民の意向	乗ったことがないし、乗ることを考えたことも無い人の意見に重点を置くのではなく、バス路線を支えている日常的にバスに乗降している人の意見を尊重してバス交通ネットワークが構築されることを望む。バス路線を支えているのは現在日常的にバスを利用している人である。	1	【実施段階検討】 計画策定にあたり、バス利用者アンケートや「交通政策会議」などでバス利用者の意見を把握しながら、計画を策定しておりますが、計画の推進に際しては、バス利用者を含めた関係者の幅広い意見を聞いて参ります。
7	2（4） 本県バス交通の課題	交通空白地域を解消するため、一度廃止になったバス路線を再び新設する案となっているが、再び路線バスを通して採算をとり維持していくことができるか。住民アンケートなどから需要として読み取れるのか。	1	【その他】 新設・再編する路線は、平成22年の国勢調査及び道路交通センサスから交通拠点間の交通需要があることなどを踏まえ提示しております。

番号	箇所	意見の内容（概要）	意見数	意見に対する県の考え方（対応方針）
8	2（４） 本県バス交通の課題	一度自家用車を使って移動する生活を始めてしまうと再びバスに戻ることは無い。簡単に需要があるとは考えられない。再度路線をつなげて、乗らなかったらまた止めるなど不安定ならば通勤・通学に利用しようとは考えない。公共交通空白地域を埋めることだけに重点を置かず、既存路線の減便・廃止をくい止めることも念頭に置き慎重かつ十分に検討してもらいたい。	1	【記載済み】 この計画は、既存路線を維持・確保する中で路線の新設・増便をすることにより、持続可能で利便性の高いバス交通ネットワーク機能の確保を図ることを目的としています。路線の新設とともに、利用促進策を実施することで、既存路線の確保にも取り組んで参ります。
9	4（２） 交通拠点の設定	イトーヨーカドー甲府昭和店が交通拠点になっていることは良い。ラザウォーク甲斐双葉を利用する人は、その西側に住んでいる人が多いと考える。各拠点からつなぐバスの向かう先を考えてもらいたい。また、ある程度本数がないと利用につながらないと考える。ショッピングセンターが拠点として役割を果たすとしたら、イオンモール便のようにある程度本数がないと利用につながらない。	1	【実施段階検討】 各交通拠点からのバスの経路や運行本数については、バス事業者や市町村において利用者の状況を勘案しながら検討して参ります。
10	4（３） 広域的バス路線	石和温泉駅からフォレストモール富士川路線について、笛吹市から市立甲府病院に行く人はいても山梨大学医学部附属病院や富士川町に行く人は少ない。富士川町から山梨大学医学部附属病院に通う人はいても市立甲府病院や笛吹市に行く人は少ない。病院にどの地域から人が集まっているか調査をしたか。通院だけで無く生活圏域を考えてもこれほどの広域路線が必要か疑問。それぞれの場所から甲府駅等をつなぐような乗り継ぎ路線があることが前提。また、ある程度本数がないと通院に使えない。	1	【修正加筆等意見反映】 新設路線案は、県民の交通需要を踏まえて提示しておりますが、実際の運行に際しては、バス事業者などと協議をしながら運行本数や運行区間・経路を決定することから、「４（３）県内交通ネットワークにおける広域的バス路線再編候補」のP35に「なお、利便性の高いバス路線となるよう、具体的な運行本数や区間・経路などについてバス事業者や沿線市町村などと協議しながら、下記路線の新設・再編の実現を目指して参ります。」と追記します。
11	4（３） 広域的バス路線	新設する予定の２路線について廃止になったバス路線の区間が含まれており、同じように採算がとれないことにならないか。広域すぎて利用者が多くなることは考えにくい。	1	【修正加筆等意見反映】 新設路線案は、県民の交通需要を踏まえて提示しておりますが、実際の運行に際しては、バス事業者などと協議をしながら運行本数や運行区間・経路を決定することから、「４（３）県内交通ネットワークにおける広域的バス路線再編候補」のP35に「なお、利便性の高いバス路線となるよう、具体的な運行本数や区間・経路などについてバス事業者や沿線市町村などと協議しながら、下記路線の新設・再編の実現を目指して参ります。」と追記します。
12	4（３） 広域的バス路線	利便性を向上する増便について、イオンモール便だけ増便になっている現状のように、偏らない再編を検討してもらいたい。	1	【記述済み】 「４（３）県内交通ネットワークにおける広域的バス路線候補」で記載しているとおり、増便による移動の円滑化が必要な路線として、イオンモール便以外の路線についても記載しております。
13	4（３） 広域的バス路線	通勤、通学、通院に利用できるバス路線を整備することにより、通勤がスムーズになり駐車場の心配もなくなるとともに、通学も容易になれば教育にも役立つ。子供、病人、高齢者にやさしい公共交通ができる。	1	【記述済み】 「４（３）交通拠点間交通需要の把握」で記述しているとおり、広域的バス路線については、通勤・通学・通院・買い物の交通需要に対応することを目的に、バス路線の新設・再編案を提示しております。

番号	箇所	意見の内容（概要）	意見数	意見に対する県の考え方（対応方針）
14	4（４） 地域内バス路線	身近なスーパーや医院を経由するコミュニティバスやデマンドバスを考えていかないとバスに乗らない。バス停にベンチや屋根が無いからバスに乗らないので無く、バス停が遠くて行くことができないという目線を忘れて欲しくない。	1	【記述済み】 「４（４） 地域バス路線検討会の設置・検討」で記述しているとおり、コミュニティバスやデマンド交通については、地域住民の日常生活における利用目的に応じて、病院や商業施設などをきめ細かく巡る路線の新設・再編案を、市町村と連携して検討する中で、提示しております。
15	4（４） 地域内バス路線	高齢者は免許証を返納すると公共交通が頼り。甲府市内のバスは病院をフォローすると良い。バス停にイス等を設置すれば交流も可能となり高齢者の利用者も図られる。	1	【記述済み】 「４（４） 圏域毎の再編状況」で記述しているとおり、甲府市において交通拠点と位置付けた市立甲府病院等を通るバスを運行するなど、地域住民の日常生活の目的に応じてきめ細かく地域内バス路線が運行されております。またバス事業者において、イス等の設置など待合環境の整備を進めております。
16	4（６） バス利用を促す 取り組み	IoTを駆使して県民、市民に情報を常時提供する仕組みを全国に先駆けて行う。ウーバー、ライドシェア等の県民市民参加システムも考える。	1	【記述済み】 「４（６） 具体的施策」で記述しているとおり、県内バスの運行状況をリアルタイムで提供する山梨県バス総合案内システム「やまなしバスコンシェルジュ」を通じて、バス交通の利便性の向上を図っております。
17	5（２） リニア中央新幹 線の開業を見据 えたバス交通	市内を走る小型バスが観光地を回れば、甲府駅やリニア駅を降りた観光客は市内観光に回ることができる。通勤のバスを土日は観光専用バスにして武田神社やぶどう園巡りをしてはどうか。	1	【実施段階検討】 甲府駅、リニア駅からのバス路線については、観光客を含めた交通需要を勘案しながらバス事業者とともに検討して参ります。
18	その他（甲府駅 南口について）	甲府駅南口について、7時30分頃は高速バス等が集中し、路線バスが定められた乗り場につけず乗客が乗り場から乗れないことが多々ある。車いすの利用客がいても乗り場につけない。また一般車が進入禁止を無視して出入りするのを規制せず、一般車やタクシーがバス乗り場や共用通路に止めており、バスロータリーが狭い。乗り場を見直していただきたい。	1	【実施段階検討】 甲府駅南口の管理者や交通管理者、バス・タクシー事業者と情報を共有しながら、ロータリーを含めた甲府駅南口全体がより使いやすいものになるよう、運用などを検討して参ります。
19	その他（甲府駅 南口について）	甲府駅南口についてバスの乗り場から乗り場への移動（1番から4番、5番等）が以前より格段に長くなった。乗り場の時刻表を見ないとどこ方面に行くバス乗り場がわからず、不親切。わかりやすい案内版を設置してもらいたい。利用者目線で検討してもらいたい。	1	【記述済み】 「４（６） 具体的施策」で記述しているとおり、バス利用者の利便性向上を図るため、甲府駅南口に整備する観光案内所や駅前広場に、バス乗り場・行き先・接近情報を表示するシステムを整備することとしております。また、バスからバスへの乗り継ぎの際等に、バス利用者が極力車道を横断することがないように、安全性に最大限配慮し、現在のバス乗り場形状としております。
20	その他（バス レーンについ て）	バスレーンの周知が不十分。	1	【実施段階検討】 道路管理者や交通管理者などと情報を共有し、円滑なバスの運行を図って参ります。

番号	箇所	意見の内容（概要）	意見数	意見に対する県の考え方（対応方針）
21	その他（電気自動車について）	通勤バスにより自家用車が減れば環境に良いとともに、小型バスの電気自動車化により環境問題にも対応できる。	1	【実施段階検討】 電気自動車バスなど新技術については、将来の技術進歩の状況などを勘案して検討して参ります。
22	その他（コンパクトシティについて）	人口が減ればコンパクトシティ構想など住民の進むところをまとめる政策も可能。人口が減少してもそこに住みたい人の生活を維持するためにも小型バス利用が役に立つ。	1	【実施段階検討】 人口減少に対応するため、地域公共交通と連携してまちづくりを進める「コンパクトシティ+ネットワーク」の視点も持ちながら、バスの運行を検討して参ります。
23	その他（先端技術の導入について）	バス路線のオープンデータ化は良いこと。政府でもライドシェアを検討している。AI、IoTなど最先端技術を先駆けて導入する。それにより人材育成の目標や企業誘致の目標が明確になる。誘致が決まれば仕事生まれ全国から優秀な人材が山梨に来て、人口減少対策にもなる。	1	【実施段階検討】 自動運転など最先端技術への取り組みについては、将来の交通技術の進展状況に対応しながら検討して参ります。